

科目名	社会学／社会学概論		担当者	伊藤 嘉高	
				非常勤	
			教員研究室	非常勤講師室	
学科 (専攻)	総合政策学科・知能情報システム学科 建築環境学科・臨床工学科		配当年次	1年次・前期	
授業形式	講義	授業時間	30時間	単 位	選択 2単位
【授業内容】					
<p>わたしたちはさまざまな悩みを抱えながら生きています。社会学が教えてくれるのは、私たちが悩みとして抱える問題は、たとえ「生まれつき」もった心身の特徴に対することであつたとしても、決して「自然なこと」ではないことです。社会学では、「わたし」の悩み（さらには、「わたし」という自己意識）は、「社会的」なつながり（仲間集団、家族、地域、学校、職場、国家、インターネットなど）によって作り出されていると考えます。そして、多くの人が同じ悩みを抱くとき、それは「社会問題」になります。つまり、社会学は、「なぜ」わたしたちが悩んでしまうのか、なぜ社会問題が生まれるのかを考えさせてくれる学問なのです。本講では、小難しい学説や理論からではなく、身近な悩みや社会問題から出発することで、社会学の学問的基礎（社会的想像力）を学びます。</p>					
【学習の到達目標】					
<p>社会学によって、「自己」がいかにか社会的なつながりによって作り出されているのかを知ること、自分という存在、社会という存在が当たり前のも（＝仕方のないもの）ではなくなり、新たな「自己」と「社会」を作り出していけるようになります。本講では、身近な社会問題を取り上げながら、「自己」と「社会」（さらには「自然」）を、いつまでも、どこまでも、考え、築き続けていくための知的基盤を形成することを目指します。</p>					
【成績評価方法】					
平常点（毎回の課題）30%、定期試験（記述式）70%。					
【履修上の注意・予習・復習について】					
<p>私語などの不適切な行為が見られた場合、成績評価の際に、マイナス10点とします。授業の仕方については、皆さんの意見を取り入れて、より良いものに変えていきますので、不満や意見がある場合は、毎回の課題用紙に、具体的かつ建設的に指摘してください。一緒に、より良い授業を作り上げていきましょう！</p>					
<p>定期試験は、教科書（穴埋め式）を持ち込み可能とするので、授業中は、教科書の穴埋めを行うだけでなく、後で見返したときに内容が把握できるよう、積極的にメモを取ってください。当日の授業スライドは当日中に下記ウェブサイトへアップしますので、復習時に活用してください。さらに、毎回、授業後に課題を出しますので、翌週の授業前に提出してください。その次の週の授業時に、皆さんの回答や意見を匿名化して紹介します。</p>					
【受講して得られる効果・メリット、その他】					
社会学は、高校までで学習する「社会科」とは異なります。「社会」の授業が、世の中の					

常識を教え込むものであるとすれば、社会学の授業の目的は、いかにして、そうした常識が作られてきたのかを学ぶことで、そうした常識に囚われることなく、一人ひとりにより良い人間関係（社会的なつながり）を作り出していく姿勢を身につけてもらうことにあります。社会学には唯一の正解はありません（唯一の正解とは、現実にある多様なつながりを切り捨てることで得られるものにすぎません）。けれども、答えを求め続け、何らかの答えを出し、そしてその答えに対する責任をとっていく——そうした人生を送るための胆力を大学生生活で養ってください。そして、そのための土台を本講で築いてください。

授 業 計 画

- 第1回：社会学とは何か——なぜ社会学を学ぶのか
（正常／異常、価値自由、公共空間／親密空間、儀礼的無関心）
- 第2回：相互行為と自己——「わたし」との出会い
（相互行為、社会化／個人化、信頼、アイとミー、役割期待）
- 第3回：ジェンダーとセクシュアリティ——生物学／社会学二分法を超えて
（フェミニズム、性同一性障害、パフォーマンスティビティ）
- 第4回：家族とライフコース——純粋な関係による家族形成に向けて
（ロマンチック・ラブ、近代家族、私事化、子どもの誕生、性別役割分業）
- 第5回：医療・福祉と自己決定——自由な自己決定から自由な自己形成へ
（福祉国家、セルフ・ヘルプ、パターンリズム、エンパワメント）
- 第6回：環境と技術——自然との相互行為
（社会的ジレンマ、リスク社会、持続可能な発展）
- 第7回：社会秩序と権力——積極的自由の複数性に向けて
（秩序問題、功利主義、フリーライダー、紛争）
- 第8回：空間と場所——空間から場所へ、場所から空間へ
（均質空間、空間論的転回、よそ者、フォーディズム、場所の消費）
- 第9回：格差と階層化——「勝ち組／負け組」社会を超えて
（文化資本、ハイパーメリトクラシー、再生産、社会的排除）
- 第10回：組織とネットワーク——「弱いつながり」の強さ
（マクドナルド化、官僚制、NPO、社会関係資本）
- 第11回：メディアとコミュニケーション——自分を伝えるコミュニケーションから自分が変わるコミュニケーションへ
（時間と空間の分離、脱埋め込み、公共圏、コミュニケーション的合理性、闘争）
- 第12回：国家とグローバリゼーション——ナショナリズムを飼い慣らす
（ネーション、エトニー、国家のイデオロギー装置、時間 - 空間の圧縮）
- 第13回：文化と宗教——なぜ宗教は無くならないのか
（価値合理性、目的合理性、再魔術化、不幸の個別化）
- 第14回：社会運動と社会構想——「普通」から抜け出す
（社会的弱者、ラベリング、社会学的想像力、新しい社会運動）
- 第15回：まとめ

教 科 書	伊藤嘉高『社会学講義ノート』（阿部紙工、2016年）
参 考 書	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『New Liberal Arts Selection 社会学』（有斐閣、2007年）
備 考	授業用ウェブサイト： http://www.h-ito.sakura.ne.jp/tbgu/2016.html